

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日. Values include 0470201435, ケアサービス希慈, グループホーム希慈, 宮城県石巻市新成3丁目9-17, 令和6年2月15日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が一日の大半を過ごす共有リビングは吹き抜けとなっており、事業所全体が明るく居心地の良い空間になっている。キッチンリビングと対面になっており職員は食事作りをしながら利用者様の見守りが行え、常に職員一人はリビングに居る状態を作ることでも利用者様は安心してソファに座りながら居眠りをしたりテレビを見たりと憩いの場になっている。また、利用者様と家族様の絆を大切に毎月利用者様の日常生活の様子や行事に参加した様子などを担当職員が手書きのお手紙と写真を添えて郵送し利用者様の様子を家族様と共有している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先, URL: http://www.kaigokensaku.jp/

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム開設から18年目になる。周りに新しい家が建ち並び、地域住民が行き交う賑やかな新興住宅街となった。散歩している地域住民とリビングの窓越しに挨拶を交わしたり、職員、入居者の散歩時に声を掛け合うなど地域住民との関係性も出来つつある。職員は長期にわたり異動することなくホームに留まり、ケアに携わっており入居者や家族の安心に繋がっている。職員が年度初めに掲げる個別目標の多くは、入居者が楽しく穏やかに過ごせる支援を目指しており、日常会話を多くして入居者の思いを引き出し、その背景を探り家族の協力を得て入居者に寄り添う支援に日々努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Values include NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会, 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階, 令和6年3月18日.

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and their evaluation.

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の必要な利用者様が制度を活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は契約書、重要事項説明書を用いて家族様と一緒に確認し説明を行いながら不安点や疑問点を伺い、お答えしながら理解・納得を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様がお支払いに来設された際には、必ず利用者様の近況報告を行い、意見や要望を頂きそれらを運営に反映している。	ホームに来所した際や電話で要望等を伺っている。入院時の手続きや衣類管理の要望があり、なるべく応じるようにしている。入居者の思いを実現すべき家族に相談する事もあり相互の協力を努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う職員会議にて職員の意見や提案を確認している。また意見の言えない職員が出ない様に、投書箱も設けており、その時々生まれた提案や意見をすぐに投函できるようにしている。	投書箱には多くの意見要望が入っている。物品購入の意見は、職員間で話し合い月毎に担当を配置し改善した。本人希望や法人からの進める研修は出勤扱いとし、有給休暇や希望休に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、意見や要望を聞き入れ出来る限り職員が働きやすい環境になり様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力や、実力を把握し、内部研修の内容を割り当て職員が講師を行っている。人に教えるということは、自分がまず、しっかりと勉強しなければいけないので身につくのではと考えている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や、集団指導などに参加し、他施設さんとの交流や情報交換を行い、サービスの質の向上へのヒントを得たりしている。	法人のグループホームとは常に情報交換をしている。地域の施設が挨拶に来たり、集団指導研修で他施設の職員と意見交換をしている。在宅診療医に来てもらいワクチン接種をしてもらった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全体で新規利用者様の状態を把握し、本人様の希望や要望を取り入れて安心して穏やかな生活が確保できる様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査や入居説明の際にホームでの生活をする上で困っている事や不安な点、要望などを確認し家族様が納得されるまで話し合い、信頼関係ができる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集のチェック欄を把握し、本人様がまず、その時に何の支援を必要としているのか見極めサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者様本位の介護支援を心掛け、利用者様から家族と思ってくれる様信頼関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様本位の介護や支援を心掛けているが、どうしても難しい場合や要望にお答えできない場合などは家族の協力を得られる様な関係性を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様、一人ひとりの大切にしてきた馴染みの人や場所の把握をし関係が途切れない様に支援に務めている。	友人が土産をもって会いに来たり、孫や子供、兄妹が来て居室や事務所で話す。思い出のラーメンを食べに家族と行ったり、孫が愛犬を連れて居室の窓越しで合わせてくれる等、馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性をすべて把握し、自席やテーブルの位置などに配慮し、皆様がうまく関わりあえる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、利用者様、ご家族様との関係が途切れない様に相談等を受けた場合はアドバイス等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話の反応や行動などを大事にし、思いや意向を摘み職員同士、情報交換を行いながら支援に繋げている。	コミュニケーションを多くし、思いの背景を探ることがある。本人は「歩きたい」だが家族は無理をさせたくないに医師と相談し、見守り歩行訓練を実施した。従前の情報等を基に引き出し、支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査の段階から、ご本人様や、ご家族様からの情報収集を念入りに行い入居後には利用者様の日常の会話の中から情報を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様個々の一日の生活スタイルを重視し、心身状態、有する力などの現状把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行うカンファレンスにて意見を出し合い、主治医や、ご家族様の意見を統括し介護計画を作成している。	カンファレンスの前に居室担当者が情報をまとめ、全職員で話し合い、介護支援専門員が作成している。状態変化時や退院後にはその都度見直し、家族や医師の指導を入れ計画書を作成し実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様は日々変化があるのでケース記録記入の充実化を図り、職員間で情報を共有しながら実践等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族様の状況に応じ、その時々生まれるニーズに柔軟に対応している。また、支援やサービスの多機能化努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様ひとり一人の生活歴等を把握し、人生の核となっている地域資源を理解し支援を行っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望に添い、利用者様それぞれの、かかりつけ医にて受診して頂いている。また、できる限り通院は職員が付き添い担当医へ近況報告を行い指示を仰いでいる。	入居者全員が希望のかかりつけ医に受診し、職員が同行している。受診後は受診記録に記載し、特変時は家族に連絡している。専門医受診も職員が同行している。近隣の薬局が薬を配達してくれる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はしていないが、日々、職員同士で情報交換を行い、気づきや利用者様に変化があった場合は、すぐにかかりつけの病院を受診し、主治医に相談、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も家族様と定期的な連絡を取り、利用者様の状況の把握に努め、情報収集し安心して戻って来れる環境作りを行っている。また、退院が決まった時には、事前に医療関係者、看護師等にお会いし情報交換や相談をしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様に重度化した場合や終末期について話し合いをし、出来るだけ希望に添える様支援している。また、ターミナルケアについて成文化しており、現段階では見取りは行わない事を契約時に説明し同意を頂いている。	「ターミナルケア(看取り)について」を明文化し、入居時に説明し、看取りをしないことに同意を得ている。入居者の状態に応じて医師と相談し、家族を交えて話し合い、次の生活拠点の確保とスムーズな拠点移動ができるよう配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し内部研修を行い、応急処置、初期対応について知識と技術の向上を図っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回、避難訓練・通報訓練を行っている。また、災害対策について内部研修も行う避難方法を確認している。	年3回夜間想定を含む訓練を実施している。消防署員から、火元近くの入居者の避難から始める等の助言があった。今回地域住民の協力がなかったため、継続して地区への協力の声がけをお願いしたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用様の尊厳や個性を尊重し、その方に合わせた支援をしている。また、居室も完全個室であり個々のプライバシーが確保され安心して過ごせるように配慮している。	名前は「さん」付けである。家族の要望の食事時のエプロン使用は、職員がさり気なく口元を拭いている。一人用のテーブル希望に応じている。失敗時は小さな声で誘い、羞恥心に配慮した支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々生活する中で、利用者様の小さなサインや変化を見逃さず、思いや希望を最大限に受け入れ自己決定できる様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設での一日の流れはあるものの、基本的には利用者様ひとり一人を中心に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切に、好みやおしゃれを楽しんで頂き、髪形や着替えなど自己決定できる様に支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの工夫や食事の見た目にも気を配り、食事が楽しみなものになる様に配慮している。また、片付けなども個々に合わせて職員と一緒にしている。	冷蔵庫を見て献立を決めたり、在庫を見て地元のスーパーに買い出しに行く。誕生会や雛祭り等の行事には、入居者のリクエストに応じて、地域の業者からデリバリーして貰うなど楽しみな食事支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の個々の食事の状態、水分摂取の状況を考慮し支援を行っている。また、食事や水分が摂れない利用者様に対しては医師に相談し必要に応じて栄養補助食品を処方してもらい対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人口腔内の状態を把握し本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導の他に、排泄パターンや、利用者様、個々の小さなサインも把握しており、トイレ誘導を行っている。また、夜間帯はおむつ使用の利用者様も日中はトイレ誘導を行い気持ちよく排泄して頂いている。	車椅子移動や脇を抱えての歩行支援、シルバーカー等個々に見守り対応し、トイレに誘導をしている。入居者のサインによる誘導やおむつ使用の方も日中は2人介助でトイレに排泄し改善に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分量、便の状態、排便の有無など細かく記入し、本人様の状態に考慮しながら、総合的に判断し適切に排便コントロールができる様に支援している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴時間帯は制限しておらず安全に配慮しながら、ゆったりと入浴を楽しんで頂いている。また、気分の優れない日や体調によって無理強いはせず翌日に入浴して頂くなど臨機応変に対応している。	週2～3回1日3名の入浴支援で午後に実施している。重度の方3名は2人介助でシャワー浴をしている。入浴を拒む方とはその理由をじっくり聞いて入浴してもらう。季節のゆず湯や菖蒲湯が人気である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を考慮し、状況に応じていつでも休息できるように環境を整えている。また、音や光に配慮し気持ちよく眠れるように支援もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様個々に処方箋ファイルを準備しており、いつでも確認できる様にしている。また、薬はその都度、職員がセットしており、服薬錠数も記入、確認しながら、その方にあつた服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事等の準備や、日常生活の中で、その方に合った役割等を探し出し、出来た時の喜びを感じて頂ける様支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添って外出できる様にしている。また、本人の思いや、希望を把握し家族様などの協力を得ながら出掛けられる様に支援している。	コロナの影響もあり外出は控えめにしているが、万石浦中学校方面に花見に行った。本人の希望で牡鹿半島の自宅に行き墓参りをし食事をして来た。通院の帰りにドライブをしながらホームに戻るなど外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は本人様がお金の所持や管理などをしている利用者様は居ないが、希望に応じて、お金を使える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様等に連絡したいと希望があればいつでも、自由に電話して頂いている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓から自然光が差し込むリビングは、明るく、ぬくもりを感じる落ち着いた空間となっている。また、テレビの見やすい位置にソファを置きゆったりと過ごせる様に工夫し、季節ごとに装飾品や思い出の写真も飾り居心地の良い環境作りをしている。	木造づくりで天井が高く、圧迫感がなく光が入りゆったりとしたリビングである。窓や壁には入居者や職員手作りの桜の花やモビールが飾られ、そこで体操をしたりゲームなどをして過ごすことが多い。朝と昼に換気し適温適湿に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は、テーブルやソファの位置などを工夫し、お独りになれる場所の確保や、気の合う利用者様同士が交流できるような居場所作りを工夫している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り安心して生活して頂くために、慣れ親しんだ物の使用や、好みの物を飾って頂くなど工夫をし居心地の良い空間作りをしている。	クローゼットやベッド、洗面台、エアコンを設けてある。そこに馴染みのテーブルや思い出の座布団、飾り棚、ぬいぐるみを持ち込んでいる。居室に籠り整理整頓をする入居者等思い思いに居室で過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様個々の状態を理解し、安全に配慮しながら、一人ひとりの力を生かし自立した生活が遅れる様に工夫している。		